

Q2

長文読解がとても苦手です。単語を新しく覚えてもなかなか読めないで不安です。長文読解が得意になるポイントは何でしょうか。

A

英語の長文は、基本的には日本語の現代文を読むのと同じだと思います。そこで、日本語の現代文を読むのが得意な人とはどのような人かを考えてみると、大いに参考になります。やはり、本や新聞・雑誌などをよく読んでいて常識を心得ている人です。そういう人は、日本語で難解な単語があっても、たいていは要点を把握してしまいます。

こういう人は、決して日本語の単語を、単語帳で一つ一つ覚えた人ではありません。背景知識が豊富な上に、文を読み慣れているわけです。「読み慣れている」ということは、最初から最後までサーッと読むコツをわかまえているということです。よくわからない箇所でも、全体のポイントに影響なさそうな箇所は無視して読み進むことができるのです。こういう人は、著者が言っているポイントをつかむのが速いし、文を読みながら、次に書かれていることがたいていは予測できるくらいになっているはずです。

ですから、英語の長文読解が得意な人には2種類あると思います。

まず、日本語の現代文が得意で、常識が発達し、英語にも同じ感覚で臨むことができるタイプ。このタイプの人は文の運びをカンで知っているの、ほぼ正確にどんどん読めます。

もう一つのタイプは、そのような習慣が身につけていないために、まず単語を覚えることからアプローチするタイプです。ただし、ここまではたいていの人がそうであって、特に変わっているわけではありません。実はここからが大切です。

このタイプの人が長文読解が得意になるためには、暇さえあれば、(あるいは每日一題と決めて)長文読解に慣れ親しむことです。その方法で努力しているうちに、長文を読むことがそれほど苦にならなくなってくるものです。話の展開もほぼ予測できるまでになってしまうわけで、もうこうなると読書家と言ってもいいでしょう。

断片的な知識としての英単語が身についたら、それを武器にひたすら次の試験を待つ。長文を積極的に読むのは、試験の時だけ。試験の時には仕方がないから頑張っって読む。…こういうやり方では、ほとんどうまくいきません。

結論としては、「英単語は長文のストーリーとともに覚えよ。その後も、長文を貪欲に読んで、読むコツを身につけよ」ということに尽きます。